

国語科 学習活動案

日時 2006年3月8日(水) 2時間目
児童 1年1組 男子17名 女子15名計 32名
指導者 大 山 睦

1. 学習材名 『お手がみ』 (物語文)

※学習材の主題 「友達と心をつながり合えるすばらしさ」

2. これまでの学習と実態

1年生段階として、国語科での学習理解に繋げていくために、まず、全員が「読める」「音声として表現できる」ことを重点に学習を進めてきた。毎時間、できる限り多くの子が読みの発表ができるような時間設定と、学級経営上の最大課題であった学習環境づくりとの関連における取り組みから、全員が表現できる実態が確立されつつある。小さな声でしか発声できなかった子も、全体に聞こえる声で表現できるようにもなった。技能的な観点から見れば、初見読みですらすらとはいかず、読みを繰り返しているうちに読めるようになるというのが実態ではあるが・・・。

3. 低学年ブロックにおける検証の方向性から

検証の方向1 … 音読を基盤とした学習を進め、学習の基礎を培う。

- ・音読だけでは確かな内容理解には至らないという考えも、実践上、明らかにされてきたが、相当量読むことが、ある程度の理解まで到達しうることもまた確かといえることから、これまで通り、音読の時間を確保(時間量としては減少)しながら進める。

検証の方向2 … 子どもの理解・思考を教師が見取る手段を明確にする。

- ・本学習材では、会話文が多いことから、音読を通して読みとったことから、登場人物の気持ちを、台詞を追加していくという活動でその理解度を把握していきたい。学習目標としては、会話文の朗読劇を創り上げ、発表し合うという形でまとめる。

※グループ活動を取り入れると、他の考えに流されがちな子もいるため、個々の活動としていく。

検証の方向3 … 教師の見取りを子どもの学習活動に還元する。

- ・手間のいる作業となるが、個々が追加した台詞をもとに、一人一人の内容理解や学習意欲等に関わって、教師側から一人一人への「お手がみ」という形で評価し、次時へ繋げる。学習内容に関連した内容で、子どもから教師側への「お手がみ」も自主的発動の取り組みとして取り入れたい。

4. 学習活動計画（13時間扱い） ※本時 4 / 13

学 習 活 動	時 数
○範読・通読・学習計画等	1～2
○場面ごとの読み（5場面） ※本時（2場面）	3～7
○個々の台本の仕上げ（追加・修正・整理）	8
○朗読練習	9
○朗読劇発表会	10～11
○友達に「お手がみ」を書こう（発展学習） ※聞かせ合う	12～13

5. 本時の学習活動

（1）目 標

- ・ 2場面を音読し、かえるくんの気持ちや行動を理解する。
- ・ 内容理解をもとに、台詞を追加する。

（2）展 開

5分	○教師側からの「お手がみ」紹介（1場面の学習に関わって）
25分	○2場面の後追い読み（教師の後について） ○音読練習 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大きな声ではっきり読もう。 ・ 、や。に気をつけて読もう。 ・ まちがえないで読もう。 ・ 速さに気をつけて読もう。 </div> ⇒ これまでの課題から、登場人物の気持ちを聞き手に伝える読みへの発展を意識させる。 ○音読発表 できるだけ多くの子に（一人読み）
10分	○2場面の台詞の追加（台本に書き込みをする）
5分	○追加した台詞の聞かせ合い
	※台本回収 ⇒ 教師側からの「お手がみ」⇒ 返却（次の日）

（3）評 価

- ・ 意欲的に音読学習に取り組み、発表意欲が持てたか。
- ・ 内容を捉え、台詞をつけ加えることができたか。